



Title	本會記事
Author(s)	酒井, 全太郎
Citation	懷徳. 1943, 21, p. 44-47
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/89106">https://hdl.handle.net/11094/89106</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 懷德堂記事

逝去せらる。

▲大久保評議員 評議員侯爵大久保利武氏同年

七月十三日薨去せらる。

▲現行講義、講演科目 定日講義 月曜 論語

十八史略、火曜 支那語、論語音讀、水曜

韓非子、木曜 萬葉集、唐詩絕句、金曜 孟

子、支那語 土曜講演 佛像彫刻の研究、日

本建築史 通俗講演 九月加藤竹里 十月五井

蘭洲 十一月藤井藍田 十二月大鹽平八郎

## 本會記事

定)

▲一瀬評議員 評議員一瀬余吉氏昭和十八年一

月十九日逝去せらる。

▲森下評議員 評議員森下博氏同年三月二十日

幹事 酒井金太郎

△昭和十七年十月十日

本堂恒祭を舉行せられ、會員一同奉仕す。會

誌懷德第二十號を刊行。

△十月十七日

南畫見學會を催す、一行三十名、雨中を和歌浦會館に至り、和中金助氏所藏の祇園南海、桑山玉洲、野呂介石の遺墨遺書多數を、數回にわたり展觀、其の度毎に夫々源 豐宗先生の説明を拜聽して、夕暮漸く霽れし浦曲の秋景色を眺望して歸阪。

△十一月二十二日

天沼先生の指導で天野山金剛寺の國寶建築見學、終つて曾我部同寺住職より同寺の沿革を拜聽、參加者五十名を超え非常な盛會であつた。

△昭和十八年一月一日

會員數名參堂、先師儒諸先生の神位を拜し、

吉田先生に賀詞を奉る。

△三月二十八日

三月二十五日京都にて昇天された中井家の後裔、中井木菟麻呂先生の告別式が、午後、大阪石町の大阪正教會にて舉行せられた。木犀が香る庭に福壽草と水仙の花とが雨に濡れてゐる。櫻花、黃水仙など、くさぐさの花に飾られた會堂にて舉式せられ、會員十數名が參列した。當日本堂より捧げられた哀辭を左に掲ぐ。

中井黃裳先生哀辭

嗚呼黃裳先生。名門之出。以儒承家。學德竝高。夙懷隱操。高尚其事。壽益以長。志愈以堅。甚嗜離騷。頗有才藻。兼精國學。吟咏以娛。常語人曰。復興舊館。以振女學。纂修遺書。以防散亡。繼承祖志。以棲峨山。是吾

願也。年壽徒高。志業弗及。是吾憂也。然齡益進。腸疾爲累。事與志違。不果其意。壽讌屢畢。命輒盡矣。祝壽之說。其爲識乎。嗟呼。事成不成。天命存焉。華胥天樂。既名其居。今將何言。可以瞑矣。遺文在室。永以不朽。唯恨無嗣。有一妹耳。痛哉。茲弔其靈。敬展哀誠。

△四月二十五日

關急上六に集合し耳成驛に下車、澤瀉久孝先生の指導にて先づ耳成山に登りて、萬葉遺蹟に就て臨地講演を拜聴、櫻井驛より徒歩にて三輪山麓の大神神社に參拜し二千六百年奉祝館にて休憩、續いて丹波市驛下車石上神社に參拜し、最後に櫛本驛附近なる人麿歌塚を訪れて歸阪。參加者約五十名。

△五月二日

姫路驛よりバスにて書寫山麓に至り登攀十八

丁にして圓教寺々務所に至る。休憩後、天沼俊一先生の御説明にて數々の國寶建築を見學し、内海の風光を眺望しつゝ下山する。一行二十數名。

△五月二十三日

建築のことは實地を見ないとわからぬと仰せらるゝ天沼先生の指導にて、全部江戸時代で新しいが、配置が黃檗宗の代表的なものであるといふ黃檗宗の本山、宇治の萬福寺の伽藍を見學する。會員約五十名集る。

△五月三十日

王寺驛下車、澤瀉先生の先導にて、會員二十名、先づ龍田神社に參拜し、龍田川附近の萬葉遺蹟を探り、長屋王の墓に頓かづき、平群驛より乗車、生駒驛にて先生と別れ歸阪す。

△六月二十七日

源先生の指導にて京都西本願寺の國寶襖繪建築等を見學し、それより市電、大宮今出川停留所附近の妙蓮寺に到り休憩後、先生の同寺の襖繪屏風繪に就ての御講演を拜聽し、見學す。參加者約百名、盛會を極む。

△七月十五日

十三日薨去せられた大久保利武侯爵の告別式が東京の青山齋場にて舉行せらる。本會を代表し幹事太田勸兵衛君參列す、太田幹事の參列記事を左に掲ぐ。

故大久保侯爵告別式參列に就て

太田 勸兵衛

昭和十八年七月十五日午前十時東京青山齋場

故大久保侯爵告別式參列に就て

にて、故大久保利武侯爵の告別式が執行はせられた、私の如きものが堂友會を代表して故侯爵の告別式に參列した事は、一寸變に考へられるが、事は大正十三年夏、懷德堂記念會創立者、故西村碩園先生の告別式に、聽講生代表として當時の記念會理事長永田仁助様に伴はれ上京の途中、車中の永田様が「今日は御苦勞ですな、時に太田さん、もう一度必ず東京のお葬ひに行つて頂かねばなりません、それは現在の懷德堂を建立します時の長官であらせられた大久保様が、萬一の時は、必ず忘れずに參つて下さい」とのお話に因るのです。

七月十五日午前十時青山齋場に到着しまして直に懷德堂記念會から託された哀辭を靈前に獻じ、拜禮して退下致しました。因に記念會より